

島田 アウトレット 白紙

旧金谷中跡地、事業者計画断念

島田市金谷富士見町の市有地(旧金谷中跡地)への民間事業者によるリゾート型アウトレットモール建設について、同市と事業者側は7日までに、新型コロナウイルス感染症の影響などにより事業継続が困難であるとして、双方で事業の中止に合意した。同日、染谷絹代市長が市議会全員協議会で説明した。事業者は、統合の杜研究所と八ヶ岳モートルマネージメント(いずれも東京都)と県が実施した公募型プロポーザルで選定され、2018年に市と土地の賃貸借期間が始まる。20年4月ごろの着工、21年春の開業を目指していたが、市が19年末に計画の遅れを表明した。ことしに入り新型コロナウイルス感染症の影響が拡大したことを受け、事業実施が難しいと判断したとみられる。

旧金谷中跡地は県が取得し再整備した「ふじのくに茶の都ミュージアム」がある牧之原台地の一角。1977年に中学校が移転して以降、活用法が決まらず、2008年に県、市による産業展示施設の新設構想が発表されたものの白紙になった経緯がある。県が新たに「空港ティールガーデンシティー構想」に位置付け、民間活力による開発を目指していた。(島田支局・中村綾子)



アウトレットモールの建設が予定されていた旧金谷中跡地(中央手前)。=7日午前10時、島田市(本社へリ「ジェリコ1号」から)

